



紀々(きき)
1998年に早稲田大学第一文学部哲学
学科東洋哲学専修を卒業後、電子オ
ルガン奏者に。2003年にコーチ
ングの資格取得後、企業・個人のサポ
ートを始める。哲學家。企業研修やプ
ログ「紀々の記」等を通じて、働く
現場の元気度アップに取り組むと
ともに、音楽、レザークラフトなど幅
広い分野で活躍中。

「前向き」を哲楽してみると…

後ろを振り返ることで
勇気がわくこともある

「前向きに働こう」「前を向いて生
きていこう」：現代社会は、全体的
に前向き志向が強く求められている
せいか、このような言葉が働く現場
や日々の生活の中でも、しばしば聞
かれます。でも、「前向きに！」を
唱えずで、かえって進みにくくな
る時はありませんか？

つい最近、私は、そんな感覚があ
りました。実際、「前向きに考えな
くちや、と思っはいるのですが…」
「頭ではわかるけど…」という方は
多いはず。そうした声にうなずきつ
つ、今回は、この「前向き」につい
て哲楽してみたいと思います。

さて、そこで考えてみたいのが「後
る向き」という言葉です。よく、「前
向き」の反対語として使われ、「後
るを振り向かずに、前を向いて」と
言われることもありすが、はたし
て、そうなのでしょうか？

前を向く＝プラス、後ろを振り向
く＝マイナス、という単純なこと
でもないように私自身は感じていま
す。というのは、つい先日、「後ろ
を振り返ったことで、勇気がわいた」
出来事があったからです。

そのとき、私は、新しい企業サポ
ートが始まり、どのように取り組んで
いこうか、新しい壁にぶつかってい
ました。そこで、ふと思いついたの
が、過去の現場を訪ねること。1
年前からサポートさせていただいて
いる企業を訪ねて、現場のスタッフ
の皆さんにも話を聞きつつ、その支
援当初を振り返ってみることにした

のです。

「あ、紀々さん。来てくれたんで
すか！」。温かく迎えてくれた、こ
の現場の方々との1年前のやりとり
を思い出すと、当時は「ちよつと聞
いてくださいよー」などという不満
やグチをよく聞きました。あるいは、
泣きながら「仕事がつらい」と訴え
られたこともありました。

それが、最近では、「このアイデ
ア、どうですか？」「コレ、〇〇さ
んが作ったもので、お客さまから好
評です！」といった自慢話やうれし
い報告へと変わっています。でも、
当初は内心、私のアドバイスをど
うに受け止めていたのだろうか？

「何か」がある、と感じた私は、
現場の方に当時は振り返ってもらい
ました。すると、それぞれが記憶を
たどって、いろいろな思いを明かし
てくれたのです。

「実は、どこか、やらされ感があ
りました」「さつくばらんに話しま
しようと言われても、正直、どうし
ていいかわからなくて困惑していま
した」「特に会話をしなくても、業
務は回っていたからね。コミュニ
ケーションが大事だという意識はあ
まりなかったなあ」などなど。

皆さん、いろいろな思いを抱え
つつスタートし、一つ一つ向き合っ
中で、自然に前向き志向に変わっ
ていったことがわかりました。「前」
だけにとらわれず、「目の前・うし
ろ・ナナメ」に目を向ける大切さを
実感し、新しい支援先での「道筋」
がハッキリ見えてきました。過去を
振り返ることで、大きな勇気と手応
えを得ることができたのです。

軽やかな心で
壁に向き合おう

そして、この時、私の頭に浮かん
だのが、「壁にぶつかっているのは、
新しい壁まで進んできた証^{あかし}」とい
う視点です。「最初に作った作品は、
下手でもとっておくこと」という、
学生時代の恩師に言われた言葉も思
い出しました。行き詰まった時や進
歩を感じられない時に、それは「振
り返るべき貴重なスタート地点」に
なるからです。

今、当たり前前にできていることも、
以前はできなかったことばかり。そ
れを頑張つて乗り越えてきたのだと
いうことを思い出すことで、壁にぶ
つかった落ち込み感から抜け出せる
ような気がするのです。だから、こ
れからは、時々、じっくり後ろを振
り向いてみようと思えました。

友人のトレーナーが「体のクセを
とるのに、後ろ向きに歩くと効果的」
と教えてくれたことも思い出しまし
た。いつも前を向いて歩く時に出る
クセが、後ろ歩きの時には出ないの
で、バランスが戻るのだ、とか。考
えるのも、歩くのも、「前後のバラ
ンス」がカギなのかもしれませんね。

物事の考え方や受け止め方につい
てはさまざまな視点を持ちつつ、い
つも心は軽やかに壁に向き合ってい
たい…という気持ちになりました。
そもそも、前向きとよく言います
が、「どの方向を、前」としている
のか？という哲楽も、面白いかも
しれません。また、機会があれば、
考えてみたいと思います。
あした：転機に、なあれ！

